日本流行歌に見られる夕陽・夕焼け

加藤賢一（一日芸能評論家、大阪市立科学館）

１．はじめに

2008 年秋のシンポジウムで山折哲雄名誉会長が美空ひばりの歌う「真っ赤な太陽」を紹介されたのをきっかけに、2009 年 9 月、大阪市の水都イベントで千昌夫の「夕焼け雲」にことよせて夕陽の紹介をさせていただいた。有名な歌だけにご存知の方が多く、それなら次は流行歌全般について夕陽がどのように登場するか見てやろうということで、2009 年 12 月の夕陽講演会では表題のタイトルとなった。フランク永井や舟木一夫などのビデオ映像を用意し、全員で合唱という心積もりだったが、どうにも機器が不調で口ぱくの映像しか出ず、参加の皆様には妙な緊張感を味わせてしまった。誠に申し訳なく、残念だった。

２．生きるためには衣食住で足りるか？

前号の会報にも登場してもらった作家の五木寛之氏は昭和 7 年生まれで、朝鮮で育ち、終戦後、大変な思いをして帰国したという。中国大陸から帰還しようという大勢の人たちが着の身着のままで平壌へ押し寄せてきたが、帰国のあてもなく、工場のような大きな建物に集団で過ごしていた。そうした不安と緊張の中で、唯一、心を慰めるものと言えば昔の流行歌であった。一人が口ずさみ始めると次々に伝播し、大合唱になった。戦中は決して歌うことが許されなかった高峰三枝子歌うところの「湖畔の宿」のような退廃的な雰囲気の歌こそ、しばしの慰めとなり、生きる希望を与えてくれたという趣旨の話をしていた。昭和 10 年頃、五木少年の知らない時代に実はとても豊かな歌文化があったことを知らされたという。

これを聞いて、人間、パンのみにて生きるにあらず、という言葉がすぐ浮かんだ。意味合いは違うかもしれないが、人間は衣食住のみで生きているわけではない。人間を人間たらしめているのは娯楽であり、それを自分の意のままにできる自由と一緒になってこそ、人間は人間らしくなると思い知らされた。確かに、歌はなんの道具もいらない。とても手軽に楽しめる娯楽である。

生きるか死ぬかというこれ以上ない緊張状態の中で慰めになったという歌。昭和初年に流行したはやり歌は極めて情緒的な世界を歌っていた。そこに夕陽が登場するのは、日本人なら容易に理解できるはずだ。それは昔からの民俗に見られる、というような話は別の機会にして、流行歌の歌詞・曲名に夕陽や夕焼け等の文言が見られる例を挙げて、流行歌を分析してみたい。

３．歌詞を分析

古茂田信男他著「日本流行歌史」（上、中、下）（1995、社会思想社）に記載されている流行歌を数えてみた。1868 年（明治元年）から 1993 年（平成 5 年）までの 126 年間に 4309 曲であった。そのうち夕陽や夕焼けが歌詞に登場するのは 82 曲で、割合にすると 1.9%、1 年半に 1 曲である。

図 1 に発表された流行歌数を年毎に並べた。1930 年（昭和 5 年）頃から爆発的に増え始め、終戦前後に落ち込んだものの、戦後に息を吹き返し、1970 年頃にピークを迎えたように見える。

昭和初年から増え始めたのは、昭和 3 年にレコードが発売開始となったからである。それまでは、実演か、雑誌に付いてきた楽譜などで覚えた人が他の人に伝えてという具合で、人づてに流行していった。誠に慎ましやかな伝達手段であった。それでも大正時代から昭和初年にかけてのいわゆる大正デモクラシー時代に小さな盛り上がりが見られる。浅草オペラの時代であった。

レコード時代になると、ブームを作って歌を商売にしようという動きが活発化した。そのヒット作第一号が「君恋し」で、その頃流行していた社交ダンスの風に乗ってフォックストロットのリズムで作られた。フォックストロットとは狐歩きという意味で、それを簡略化したダンスがおなじみのブルースということらしい。いずれにしろ、「君恋し」が登場した頃はレコード歌手はいなかったわけで、「君恋し」を歌ったのが浅草オペラの二村定一だったのはそういう次第。

浅草オペラもレコードの登場も、その結果の流行歌の登場も、第一次世界大戦後の安定した時代の産物であったことを心に留めておきたい。それが戦前の豊かな文化生活を作ったのであり、産業や科学技術、教育などの発展とも機を一にするものであった。

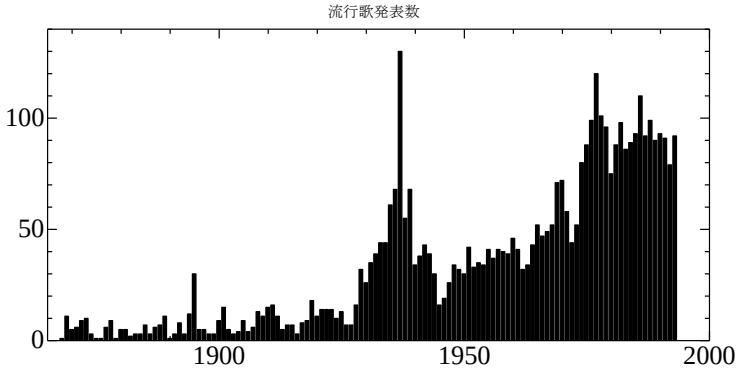

図１．流行歌発表数（年代別分布）

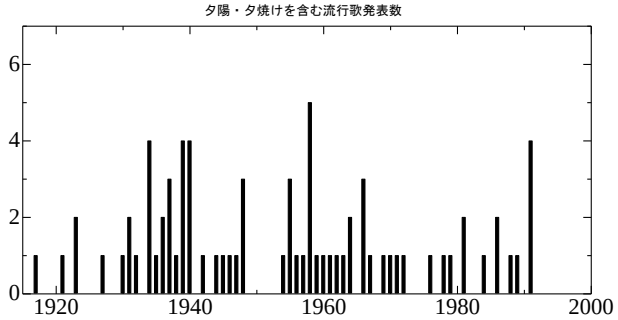

図２．夕陽、夕焼けが登場する流行歌数

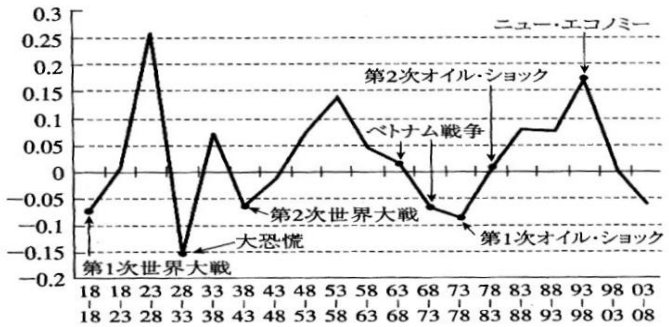

図３．株価の変動率

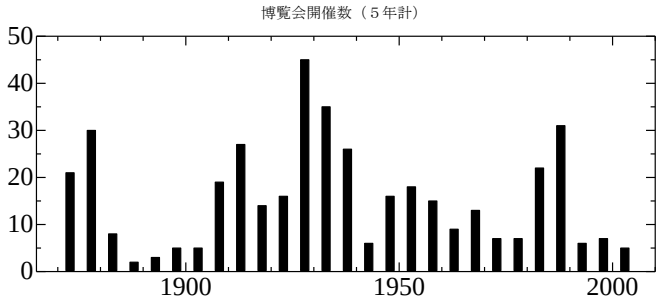

図４．博覧会の開催数

こうした背景を持って登場した日本流行歌に夕陽が登場したのはごく自然な成り行きであったと思われる。図２は夕陽・夕焼けが登場する曲の発表数分布である。さしたる傾向は見えないようだが、しいて言えば 1930 年から 1940 年あたりに小さな集中が見られる。軍歌の効果だろうか？そうだとすると、夕陽に死を重ねていたわけで、昔からの仏教的な世界観からの流れに位置づけられるかも知れない。夕陽に涙したり、悲しくなったりという世界はこれと同じ系譜に含めることができよう。

一方、清少納言が「枕草子」第一段で紹介しているような夕暮れもある。すなわち、

秋は、夕暮。夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、烏の、寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへ、あはれなり。まいて、雁などの列ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。

この世界は「赤とんぼ」や、ぎんぎん　ぎらぎら　夕日が沈む、の「夕日」などに見られるもので、夕陽を観賞美の対象としている。

流行歌の歌詞を見ていると、大きくこの２つに分類できるようである。いずれも日本人の感覚にはぴったりの世界である。

４．歌は世につれ、世は歌につれ

流行歌の枕詞のように言われている。上でも少し触れたように、流行歌はレコードという音を記録し、運搬できる媒体の発明と密接に関係している。これだけをとってみても、世の動きと流行歌は切っても切れない関係にあることが了解される。

さらにそれを見るため、図３、４を用意した。図３はニューヨークの株価の変動率で、世界経済の動向と見ることができる。図４は日本における博覧会の開催数で、株価変動率と良い相関を示している。昭和初年の大恐慌や第２次世界大戦などでは、日本も大きな影響を受けた。博覧会の開催数にそれがはっきりと表れている。その後も世界経済の浮沈にしたがい、バブル期の下降も見えている。流行歌も同様で、大恐慌時代にレコードが登場し、それからは世界経済の動きにぴったり重なっている。1970 年

代のオイルショック時には発表数がガクンと落ちている。まさに「歌は世につれ」である。
　五木寛之氏が極寒の平壌で耳にした昭和 10 年前後の流行歌は戦前の良き時代の産物であり、夕陽もたっぷり登場する情緒あふれる世界を描いていた。

５．おすすめ夕陽の歌

　夕陽の会としてはシンボル的な歌があっても良いだろうというわけで、私が勝手に決めた夕陽の会の夕陽の歌は次の如し。

大阪ぐらし（1964，フランク永井）

　敬愛する詩人石浜恒夫氏の代表作。大阪ならではの情緒がいっぱい。

夕焼け雲（1976、千昌夫）

　会誌 10 号で紹介。夕陽に別世界への扉を重ねる伝統的夕陽観の代表として。

（2010.1.26.）

表１．歌詞・曲名に夕陽や夕焼け等が登場する主な流行歌。
出典：日本流行歌史（上、中、下）、1995、古茂田信男他、社会思想社

年、曲名	作詞家、作曲家	歌詞（抜粋）
1894、M27 波蘭（ポーランド）懐古	詞　落合直文 曲　不詳	彼処（かしこ）に見ゆる城の跡　此処に残れる石の垣 照らす夕日は色寒く　飛ぶも寂びしやシャコの影
1901、M34 春爛漫の花の色	詞　矢野勘治 曲　豊原雄太郎	秋玲琉の夕紅葉　　山の端近くかぎろえる 血潮の色の夕日影　　岡の紅葉にうつろえば 錦栄えある心地して　入相の鐘暮れて行く
1903、M36 緑もぞ濃き柏葉の	詞　柴　碩文 曲　橘　正一	彼のくちなわを屠りつつ　彼の荊棘を刈らんとて　抜き放ちけり秋の水 夕日落ちて霧白し　　夜を深緑柏葉に　カンランの花散りかかれ
1905、M38 *戦友*	*詞　真下　飛泉* *曲　三善　和気*	*ここはお国を何百里　離れて遠き満州の　赤い夕日に照らされて　友は野末の石の下* *思えもよらず我一人　不思議に命ながらえて　赤い夕日の満州に　友の塚穴掘ろうとは*
1911、M44 *紅葉*	*詞 高野辰之*	*秋の夕陽に照る山もみじ　濃いも薄いも數ある中に　松を彩る楓やつたは山のふもとの裾模様*
1917、T6 さすらいの唄	詞　北原白秋 曲　中山晋平	行こか戻ろか　オーロラの下を　　露西亜は北国　はてしらず 西は夕焼け　東は夜明け　　鐘が鳴ります　中空に
1921、T10 *夕日*	*詞　葛原しげる* *曲　室崎　琴月*	*ぎんぎん　ぎらぎら　夕日が沈む　　ぎんぎん　ぎらぎら　日が沈む* *まっかっかっか　空の雲　　みんなのお顔も　まっかっか* *ぎんぎん　ぎらぎら　日が沈む* *烏よ　お日を追っかけて　　まっかに染まって　舞って来い* *ぎんぎんぎらぎら　日が沈む*
1923，T12 旅人の唄	詞　野口　雨情 曲　中山晋平	今日も夕日の　落ちゆくさきは　　どこの国やら　果てさえ知れず 明日も夕日の　落ちゆくさきは　　どこの国かよ　果てさえ知れず
1923,T12 *ゆうやけこやけ*	*詞　中村雨紅* *曲　草川信*	*夕やけこやけで　日が暮れて　　山のお寺の　鐘がなる* *お手々つないで　みなかえろ　　からすといっしょに　かえりましょ*
1927，S2 *赤蜻蛉*	*詞　三木　露風* *曲　山田耕作*	*夕やけ小やけの　赤とんぼ　　負われて見たのは　いつの日か* *夕やけ小やけの　赤とんぼ　　とまっているよ　竿の先*
1930，S5 馬追手綱	詞　藤田健次 曲　露木次男	雲は小焼の　高原染めて　　ヒンヤ　カッパ　カッパ　　追分手綱 夕焼け茜の　峠で暮れて　　ヒンヤ　カッパ　カッパ　　沓掛手綱
1931，S6 日本橋から	詞　浜田　広介 曲　古賀正男	お江戸日本橋　　今年も暮れる　　橋の上から　こちらを見たりゃ ならぶ建物　ほこりの雲で　　ヤレサかなしい　入日空
1931，S6 キャンプ小唄	詞　島田　芳文 曲　古賀正男	赤い夕陽が　端山に沈みゃ　　焚火（ファイア）囲んで　話がはずむ テント覗くは　嶺の月　　キャンプ　キャンプで　ごろりと寝てりゃ 夢に鈴蘭　香がかおる
1932，S7 満州行進曲	詞　大江素天 曲　堀内敬三	過ぎし日露の戦いに　勇士の骨を埋めたる　忠霊塔を仰ぎ見よ　赤き血潮に色染めし 夕日を浴びて空高く　千里広野に聳えたり
1934，S9	詞　北原白秋	揉めよ　揉め　揉め　　夕日の神輿　　晩にゃ　神楽の

秋の祭	曲　高木東六	ちゃんきち　鉦の音　ちゃんちきな
1934,　S9 *グッドバイ*	*詞　佐藤義美* *曲　河村光陽*	*グッドバイ　グッドバイ　グッドバイバイ　　赤い夕やけ　お日さんも* *しずんで　いったら　グッドバイバイ*
1934,　S9 山は夕焼	詞　岡田千秋 曲　田村しげる	山は夕焼　麓は小焼　　ひとりとぼとぼ　裾野に暮れりゃ 吹くな木枯し　侘びしゅてならぬ　　心しみじみ　旅の鳥 塒（ねぐら）定めぬ　はかない旅路　　今日もとぼとぼ　枯野を辿りゃ 沈む夕陽が　哀しゅてならぬ　　心しみじみ　一つ星
1934,　S9 国境の町	詞　大木惇夫 曲　阿部武雄	明日に望みが　ないではないが　　頼み少ない　ただ一人 赤い夕日も　身につまされて　　泣くが無理かよ　渡り鳥
1935,　S10 夕日は落ちて	詞　久保田宵二 曲　江口夜詩	夕日は落ちて　たそがれを　　今日もとぼとぼ　旅がらす 恋しき君よ　思い出よ　　いつの日幸福（さち）は　めぐるやら
1936,　S11 守備兵ぶし	詩　佐伯孝夫 曲　佐々本俊一	雪の満州に　夕陽は落ちる　　故郷じゃ父さん　達者でいてか 匪賊退治に　手柄をたてて　　僕も上等兵に　なりました
1936,　S11 星影追うて	詩　松坂直美 曲　鈴木武男	恋し思いを　つばさにこめて　　渡るかりがね　夕日が赤い 暮れりゃ他国の　夜風も悲し　　きれの花散る　北の空
1937,　S12 国境ぶし	詞　横沢千秋 曲　細川潤一	怖い所と聞いてたが　　蘭の花咲く　国境（くにざかい） 　オヤ　どうしたナ　　赤い夕日の　満州は　　暮れりゃ　笑顔の 　チョイト　月が出る　　ハハ　ほんとにネ
1937,　S12 湖底の故郷	詞　島田馨也 曲　鈴木武男	夕陽は赤し　身は悲し　　涙は熱く　頬濡らす さらば湖底の　わが村よ　　幼き夢の　揺籃（ゆりかご）よ
1937,　S12 *白虎隊*	*詞　島田馨也* *曲　古賀正男*	*戦雲くらく　陽は落ちて　　孤城に月の　影悲し* *誰が吹く笛か　識らねども　　今宵名残の　白虎隊*
1938、S13 *麦と兵隊* *徐州　徐州と*	*詞　藤田まさと* *曲　大村能章*	*眼（まなこ）ひらけば　砲煙万里　　鉄の炎の　狂う中　夕陽ゆらゆら　身に浴びて* *ひとり平和の　色染める　　麦の威力の　たくましさ*
1939,　S14 男一匹の唄	詞　夢　虹二 曲　佐藤長助	赤い夕陽は　砂漠の果てに　旅を行く身は　駱駝の背（せな）に　男一匹 未練心は　さらさらないが　なぜか淋しい　日暮れの道よ
1939,　S14 東京ブルース	詞　西条八十 曲　服部良一	ラッシュ・アワーの　たそがれを　　君といそいそ　エレベーター ああ　プラネタリウムの　　きれいな星空　　二人で夢見る　楽しい航路 仰ぐ　南極十字星
1939,　S14 愛染草紙	詞　西条八十 曲　万城目正	ひとすじの　ひとすじの　　愛のともしび　君ゆえ聖（きよ）い 呼ぶなわが子よ　悲しい母を　　遠い故郷（ふるさと）　夕日が落ちる
1939,　S14 白蘭の歌	詞　久米正雄 曲　竹岡伸幸	真赤な夕日の　落ちる頃　　明日をえがきて　眠る頃 希望をこめて　花園に　　香りもたかき　白蘭の花
1940,　S15 *誰か故郷を想わざる*	*詞　西条八十* *曲　古賀正男*	*花摘む野辺に　日は落ちて　　みんなで肩を　組みながら　唄をうたった* *帰りみち　　幼馴染みの　あの友　この友　　ああ　誰か故郷を想わざる*
1940,　S15 なつかしの歌声	詞　西条八十 曲　古賀正男	夕焼け空　君とながめ　　歌いし歌　楽しメロディ　楽しメロディ 歌えば涙ぐみ　こころはむせぶ　　落葉ちる朝（あした）に　雪ふる宵に 呼ぶこの歌　返らぬ涙
1940,　S15 *湖畔の宿*	*詞　佐藤惣之助* *曲　服部良一*	*水に黄昏　せまる頃　　岸の林を　静かに行けば* *雲は流れて　むらさきの　　うすきスミレに　ほろほろと* *いつか涙の　陽が落ちる*
1940,　S15 *南洋航路*	*詞　若杉雄三郎* *曲　島田駒夫*	*赤い夕陽が　波間に沈む　　果ては何処（いづこ）か　水平線よ* *今日もはるばる　南洋航路　　男船乗り　かもめ鳥*
1942,　S17 南の花嫁さん	詞　藤浦　洸 曲　任　光	椰子の葉かげに　真赤な夕陽が　　くるくるくると まわるよ　赤いひまわりの花　　たのしい歌に　ほほえむ風情 心はおどる　お嫁入り　　「おみやげはなあに　籠のおうむ」 ことばもたったひとつ　いついつまでも
1944,　S19 轟沈	詞　米山忠雄 曲　江口夜詩	轟沈　轟沈　凱歌があがりゃ　　つもる苦労も　苦労にゃならぬ うれし涙に　潜望鏡も　　曇る夕日の　　曇る夕日の　インド洋
1945,　S20 *同期の桜*	*詞　帖佐　裕* *曲　大村能章*	*貴様と俺とは　同期の桜　　同じ航空隊の　庭に咲く* *仰いだ夕焼け　南の空に　　いまだ還らぬ　一番機*
1946,　S21 黒いパイプ	詞　サトウハチロー 曲　服部良一	君にもらったこのパイプ　　夕べさみしく窓辺によれば 黒いパイプに夕日が照るよ　　煙うすれてたそがれて 　ねぐらへ帰るか鳥の影　　黒いパイプに思い出照るよ
1947,　S22 夢淡き東京	詞　サトウハチロー 曲　古関裕而	君は浅草か　あの子は神田のそだち　　風に通わすか　ねがうはおなじ夢 　ほのかに胸に　うかぶのは　　あの姿 　夕日に　染めた顔　　あかねの雲を　みつめてた 　風に通わすか　淡き夢の町　東京！
1948,　S23	詞　西条八十	たそがれ窓に　浮ぶのは　　いとしき人の　旅すがた

三百六十五夜	曲　古賀正男	我ゆえ歩む　箱根の峠　　水の夕陽が　悲しかろ
1948, S23 *憧れのハワイ航路*	*詞　石本美由起* *曲　江口夜詩*	*波の背を　バラ色に　　染めて真赤な　夕陽が沈む* *一人デッキで　ウクレレ弾けば　　歌もなつかし　あのアロハオエ* *ああ　あこがれの　ハワイ航路*
1948, S23 シベリヤ・エレジー	詞　野村俊夫 曲　古賀正男	赤い夕陽が　野末に燃える　　ここはシベリヤ　北の国 雁がとぶとぶ　日本の空へ　　俺もなりたや　ああ　あの鳥に
1954, S29 哀愁日記	詞　西条八十 曲　万城目正	山のひと夜の　ゆきずりの　　愛の言葉を　忘れかね 涙ぐみ　清いやさしい眸の君を　　呼べば都の　夕日が紅い
1955, S30 ガード下の靴みがき	詞　宮川哲夫 曲　利根一郎	紅い夕日が　ガードを染めて　　ビルの向うに　沈んだら 街にゃネオンの　花が咲く　　俺ら貧しい　靴みがき ああ　夜になっても　帰れない
1955, S30 むすめ巡礼	詞　星野哲郎 曲　下川博省	いつか日暮れた　磯の道　　帰る白帆が　見えたとて 娘遍路は　ただひとり　　帰命頂礼（きみょうちょうらい）　父恋し シャラリコ　シャラリコ　　シャン　シャラリ 赤い夕焼け　見て歩く
1955, S30 かえりの港	詞　豊田一雄 曲　豊田一雄	赤い夕陽が　岬に昏れる　　幼馴染の　島の燈台灯（あかり）がヨー 恋しゅうてならぬ　久し振りだね⌒　　かえりの港
1956, S31 東京の人よ　さようなら	詞　石本美由起 曲　竹岡伸幸	海は夕焼け　港は小焼け　　涙まじりの　汽笛がひびく アンコ椿の　恋の花　　風も吹かぬに　泣いて散る 東京の人よ　さようなら
1957, S32 青春サイクリング	詞　田中喜久子 曲　古賀正男	夕やけ空のあかね雲　　風にマフラーを　なびかせながら サイクリング⌒　ヤッホー⌒　　走り疲れて　野ばらの花を　摘んで見返りゃ 地平の果てに　　あすも日和の　虹が立つ⌒　　ヤッホー⌒　⌒　⌒　⌒
1958, S33 *夕焼けとんび*	*詞　矢野　亮* *曲　吉田矢健治*	*夕焼け空が　真っ赤か　　とんびがくるりと　輪をかいた　　ホーイホイ* *そこから東京が　見えるかい　　見えたらここまで　降りてきな* *火傷をせぬうち　早ッコヨ　ホーイホイ*
1958, S33 こいさんのラブ・コール	詞　石浜恒夫 曲　大野正雄	なんで泣きはる　泣いてはる　夕焼けの赤い木蓮　籠の小鳥も知っている あこがれ遠く　手のり文鳥　　よんでみて　さいなら幸せの町 こいさん　こいさん　　女であること　ああ　夢みる
1958, S33 *赤い夕陽の故郷*	*詞　横井　弘* *曲　中野忠晴*	*呼んでいる　呼んでいる　赤い夕陽の　故郷が　うらぶれて　旅をゆく* *渡り鳥を　呼んでいる　　馬鹿な俺だが　あの山川の* *呼ぶ声だけは　おーい　きこえるぜ*
1958, S33 海猫の啼く波止場	詞　矢野　亮 曲　林　伊佐緒	夕陽にしょんぼり　浮かぶ浮標（ブイ）　　人待ち顔なは　海猫ばかり 南で逢った　台風も　俺の思いほど　荒れはしなかった　一人　眠られず 甲板（デッキ）で呼んだよ　　甲板（デッキ）で呼んだよ　恋しさに
1958, S33 青春は雲の彼方に	詞　猪又　良 曲　上村晴男	山は夢呼ぶ　僕らの大地　　ザイルにつないだ　心とこころ　　ヤッホー　ヤッホー 赤くかがやけ　夕焼け小やけ　　ああ憧れは　流れる雲の彼方に
1959, S34 哀愁のからまつ林	詞　西沢　爽 曲　船村　徹	あとも見ないで　別れていった　　男らしさが　哀しさが 燃えるよな　燃えるよな　　夕やけ小やけ ああ　帰りましょう　影を踏み踏み　　落ち葉の道を
1960, S35 *再会*	*詞　佐伯孝夫* *曲　吉田　正*	*仲良く二人　およいだ海へ　　一人で今日は　来た私　再び逢える日　指折り数える* *ああ　ああ指先に　夕陽がしずむ*
1961, S36 下町坂町泣ける町	詞　横井　弘 曲　佐伯としお	そうかよ　そうかよ　みんな夢　　戻ってくるのが　お人好し 下町　坂町　泣ける町　赤い夕陽の　酒蔵で　飲めば影まで　泣いている
1962, S37 心はいつも夜明けだ	詞　永山　孝 曲　荒木　栄	夕陽がよごれた工場の屋根に　　しずめば　おれたちゃ街に散らばる 若者や娘たちの胸に灯をともしに　　心にゃ夜はない　いつも夜明けだ 心にゃ夜はない　いつも夜明けだ
1963, S38 *高校三年生*	*詞 丘　灯至夫* *曲 遠藤　実*	*赤い夕陽が　校舎をそめて　ニレの木蔭に　弾む声　　ああ　高校三年生* *ぼくら　　離れ離れに　なろうとも　　クラス仲間は　いつまでも*
1964, S39 十七才のこの胸に	詞　水島　哲 曲　北原じゅん	空をまっかに　そめながら　　どこ行く夕日　ひとり旅 そっとよぼうか　思い出を　十七才の　この胸に　しまっておいた　思い出を
1964, S39 *大阪ぐらし*	*詞　石浜　恒夫* *曲　大野　正雄*	*赤い夕映え　通天閣も　　染めて燃えてる　夕陽が丘よ* *娘なりゃこそ　意地かけまする　　花もあかねの　夾竹桃*
1966, S41 *君といつまでも*	*詞　岩谷　時子* *曲　弾　厚作*	*ふたりを　夕やみが　　つつむ　この窓辺に　　あしたも　すばらしい* *幸せが　来るだろう　　君のひとみは　星と輝き　恋するこの胸は　炎と燃えている* *大空そめてゆく　夕陽いろあせても　二人の心は変わらない　いつまでも*

1966, S41 *夕陽が泣いている*	*詞　浜口庫之助* *曲　浜口庫之助*	*夕焼け　海の夕焼け　真赤な別れの色だよ　誰かに恋をして　はげしい恋をして* *夕陽が泣いている　僕の心のように　夕陽も泣いているのだろう*
1966, S41 戦争は知らない	詞　寺山　修司 曲　加藤ヒロシ	戦争の日を何も知らない　だけど私に父はない　父を想えば　ああ荒野に赤い夕陽が　夕陽が沈む
1967, S42 *恋のハレルヤ*	*詞　なかにし　礼* *キョク　鈴木邦彦*	*ハレルヤ　花が散っても　ハレルヤ　風のせいじゃない* *ハレルヤ　沈む夕日は　ハレルヤ　止められない* *愛されたくて　愛したんじゃない　燃える想いを　　あなたにぶっつけただけなの* *帰らぬ　あなたの夢が　今夜も　私を泣かす*
1969, S44 白い色は恋人の色	詞　北山　修 曲　加藤和彦	夕やけの赤い色は　想い出の色　涙でゆれていた　想い出の色 ふるさとの　あの人の　あの人のうるんでいた　瞳にうつる 夕やけの赤い色は想い出の色　想い出の色
1970, S45 *戦争を知らない子供たち*	*詞　北山　修* *曲　加藤和彦*	*戦争が終わって　僕等は生まれた　戦争を知らずに　僕等は育った* *おとなになって　歩きはじめる　平和の歌を　くちずさみながら* *僕等の名前を　覚えてほしい　戦争を知らない　子供たちさ*
1971, S46 あの素晴しい愛をもう一度	詞　北山　修 曲　加藤和彦	赤トンボの唄をうたった空は　　なんにも変わっていないけれど あの時ずっと夕焼けを　　追いかけていった二人の小さな愛 心と心が今はもう通わない　あの素晴しい愛をもう一度　あの素晴しい愛をもう一度
1972, S47 *瀬戸の花嫁*	*詞　山上路夫* *曲　平尾昌晃*	*岬まわるの　小さな船が　生まれた島が　遠くになるわ　入江の向こうで* *見送る人たちに　　別れ告げたら　涙が出たわ* *島から島へと　渡ってゆくのよ　　あなたとこれから　生きてく私* *瀬戸は夕焼け　明日も晴れる　　二人の門出　祝っているわ*
1976、S51 *夕焼け雲*	*詞　横井弘* *曲　一代のぼる*	*夕焼け雲に　誘われて　別の橋を越えてきた　帰らない* *花が咲くまで帰らない　帰らない　誓いのあとの　せつなさが　杏の幹に残る町*
1978, S53 カナダからの手紙	詞　橋本　淳 曲　平尾昌晃	ラブレター・フロム・カナダ　　もしもあなたが　一緒にいたら どんなに楽しい　旅でしょう　　ラブレター・フロム・カナダ 色づく街を　歩いていると　　涙がほほに　こぼれてきます あなたの声を想い出して　　カナダの夕陽見つめています 息がとまるようなくちづけ　　どうぞ私に投げてください ラブレター・フロム・カナダ　　あなたのいないひとり旅です
1979, S54 *いい日旅立ち*	*詞　谷村新司* *曲　谷村新司*	*雪解け間近の北の空に向かい　　過ぎ去りし日々の夢を叫ぶ時* *帰らぬ人たち熱い胸をよぎる　　せめて今日から一人きり旅に出る* *ああ日本のどこかに　　私を待ってる人がいる　　いい日旅立ち　夕焼けをさがしに* *母の背中で聞いた歌を道連れに・・・*
1981, S56 ジェラシー	詞　井上陽水 曲　井上陽水	ジェラシー　愛の言葉は愛の裏側　ジェラシー 窓辺にたたずんでいると君を見てると　永い年月に触れたような気がする 夕やけ空のどこかで　忘れた愛が忍び込む　流れるのは　涙ではなく汗 君によせる愛はジェラシー　春風吹き秋風が吹き　さみしいと言いながら 君によせる愛はジェラシー　ジェラシー
1981, S56 心の色	詞　大津あきら 曲　大森敏之	燃えるサンセット　唄ってごらんよ　遠くあどけない日々を 振り向けば俺は此処にいる　だから夕陽に踊り君は　北へゆけ寒い今日を生きて 西へゆけ　そしてララバイ・・淋しさを知れば　　愛しあえる
1984, S59 *桃色吐息*	*詞　康　珍化* *曲　佐藤　隆*	*咲かせて　咲かせて　桃色吐息　　あなたに抱かれて　こぼれる華になる* *海の色にそまる　ギリシャのワイン　抱かれるたび　素肌　夕焼けになる* *ふたりして夜に　こぎ出すけれど　だれも愛の国を　見たことがない* *さびしいものは　あなたの言葉　異国のひびきに似て　不思議* *金色　銀色　桃色吐息　きれいと　言われる　時は短すぎて*
1986, S61 Merry X’mas In Summer	詞　桑田佳祐 曲　桑田佳祐	心変りは Misery She’s been cryin’　　Please be my lover 夕陽浮かぶ海へ　　ひとりきりで　駆けてた
1986, S61 愛しき日々	詞　小椋　佳 曲　堀内孝雄	生まじめ過ぎた　まっすぐな愛　　不器用者と　笑いますか もう少し時が　たおやかに過ぎたなら　　いとしき日々は　ほろ苦く 一人夕陽に　浮かべる涙
1988, S63 乾杯	詞　長渕　剛 曲　長渕　剛	かたい絆に　想いをよせて　　語り尽くせぬ　青春の日々 時には傷つき　時には喜び　　肩をたたきあった　あの日 あれからどれくらい　たったのだろう　　沈む夕日を　いくつ数えたろう

		故郷の友は　今でも君の　　心の中に　いますか 乾杯！　今君は人生の　大きな　大きな舞台に立ち 遥か長い道のりを　歩き始めた　君に幸せあれ！
1989, H1 *麦畑*	*詞　榎戸　若子* *曲　榎戸　若子*	*俺らと一緒に暮らすのは　おｙね　おえめだと* *ずっと前（めえ）から決めでいだ　嫁っこさ来ておくれ* *やんだたまげたな　急に何言うだ　俺らの前がら　松っつあんを* *好ぎだと思ってだ* *鍬を持つ手も震えでる　二人の心は　沈む夕日に真っ赤っ赤に染められで* *俺らでええのが　俺らおめえでええてば　　愛の花咲ぐ　麦畑*
1989 洛陽	詞　岡本おさみ 曲　吉田拓郎	しぼったばかりの　　夕陽の赤が　　水平線からもれている 苫小牧発仙台行きフェリー　　あのじいさんときたら わざわざ見送ってくれたよ　　おまけにテープを拾ってね 女の子みたいにさ　みやげにもらって サイコロふたつ　手の中でふれば　　また　振り出しに　もどる　旅に 陽が沈んでゆく